

2. 開会式

2. 1 開会式

はじめに、国連統計部ウィレム・デブリス副部長より開会の宣言があり、空間データ基盤の整備に向けた未来への挑戦の重要性について述べられた。

続いて、ホスト国を代表して中馬弘毅国土交通副大臣より挨拶があり、地球環境問題の解決やIT社会の発展のために地理情報基盤の整備が不可欠であり、この会議を通じてその取り組みが強化されることを期待する旨を述べられた。

また、沖縄県を代表して稲嶺恵一沖縄県知事より祝辞があり、沖縄は長い間アジアの貿易の中枢であったことから国際協力にも力を入れており、会議の沖縄開催を心から歓迎する旨述べられた。

2. 2 諸役員の選出及び会議に関する諸手続

開会式に続いて、本会議の議長・副議長・書記が次のとおり選出された。

- 議長：ヤン・カイ氏（中国、PCGIAP 会長）
- 副議長：ピーター・ホランド氏（オーストラリア、ジオサイエンスオーストラリア測量局長）
- 書記：星埜由尚 国土地理院長

次に、会議開催の主要な目的について、従来と同様に、測量、地図作成、水路測量等の関係者が共通のニーズと課題について討議すること、という確認がなされた。

その後、会議に関する諸手続として、3つの技術委員会の設置（4. 参照）とその議長の選出、議事進行規約の確認、議題の採択、信任状の提出等が行われた。

2. 3 PCGIAP 活動報告

PCGIAP 会長であるヤン・カイ氏より、PCGIAP の活動についての報告があり、地域測地観測キャンペーン、行政界データ試験プロジェクト、基盤データの共有についての方針、アジア太平洋地域空間データ基盤 (APSDI) クリアリングハウスデータノード、地籍テンプレート及び PCGIAP 海南島訓練センターについて説明があった。その後、PCGIAP の4つのワーキンググループの代表より活動報告があった。

2. 4 UNRCC-AP 報告

UNRCC-AP の報告として、国連統計部のアモール・ラーリビ氏より、前回 2000 年のクアラルンプールでの第 15 回 UNRCC-AP で採択された 8 つの決議の履行状況について報告があった。

また、参加各国より前回の会議からの測量・地図分野の発展等に関する報告 (カントリーレポート) が提出された (7. 参照)。

3. 基調講演、招待講演

3. 1 基調講演

基調講演は、国連地域開発センター (UNCRD) の小野川和延所長より、「環境管理と情報の利用」という標題で行われた。小野川氏は、国連が開発した地球資源情報データベース (GRID) についての経験を述べ、地図情報は環境管理のうえで非常に重要であり、例えば印刷情報、視覚情報及びデジタル情報などの様々な形式で、必要に応じてインターネットを通じて提供される必要があると強調した。また、インターネットによって情報管理の分散化が進んだことや、開放型システムが効果的に機能するための綿密な必要性評価について述べた。

3. 2 招待講演の概要

「全球、地域、各国の空間データ基盤」「国際機関の取り組み」「空間データ基盤にかかる経済的問題」「能力開発と教育」「空間データの収集、管理、配布」の5つのセッションで延べ 29 名から招待講演が行われた。講演者、演題及び、講演の概要は次のとおり。

3. 2. 1 セッション「全球、地域、各国の空間データ基盤—全球」

(1) アラン・スティーブンス 全地球空間データ基盤協会 (GSDI) 事務局長

「GSDI の整備と課題、アメリカ合衆国における SDI の発展」

アメリカ合衆国の SDI への取り組みと GSDI の役割について述べた。アメリカではデジタル地理空間データの作成、管理及び共有の方法を各州が統括するための共同作業のための組織である「I-Team」を構成中であると述べた。

また、「Geospatial One-Stop」についても言及した。これは、無駄なデータ収集や保管を避けるため、一度で全ての地理情報が入手できる単一のアクセス拠点を、連邦政府・州の機関・地方の機関のために設置することを目標としている。

最後に GSDI の紹介があり、普及啓発の促進、クリアリングハウスやポータルウェブサービスによるデータのアクセス及び検索の促進、能力開発の奨励と実施、SDI 整備についての調査の実施、地球地図プロジェクトと協力して実施した研修等が紹介された。

(2) フレイザー・テイラー 地球地図国際運営委員会 (ISCGM) 委員長

「地球地図と空間データ基盤：地理空間データの整備と普及のための取り組み」

地球地図の概念、整備の現況、参加国の状況など、地球地図の進展を概説した。米国ナショナルアカデミーが実施しているアフリカでの研究調査と地球地図プロジェクトの連携を現在の意欲的な取り組みとして紹介した。利用者からのデータ整備の要求に応えること、そして人的